

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No.28

2020年1月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院

謹賀新年



院長挨拶

年頭挨拶

登録医紹介

あしのメディカルクリニック

特集

病棟紹介・診療外来紹介

特集

マイタウンまつり

特集

赤十字の講習

マイタウン・マイホスピタル

ミニニュース

お知らせ



今年もよろしく

～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～



年頭挨拶



白石 悟院長

那須赤十字病院 院長 白石 悟

新年あけましておめでとございます。皆さまにおかれましては健やかに新年をお迎えされました事衷心よりお慶び申し上げます。
昨年は9月20日から1カ月半にわたり激闘が繰り広げられ、日本代表が史上初の8強入りを果たし、空前絶後の盛り上がりを見せたラグビーワールドカップ日本大会は成功裏に幕を閉じました。
今年には東京で二度と見ることがないと思っていたオリンピック・パラリンピックが約半世紀ぶりに開催されることとなりました。
1964年東京オリンピックはアジア初の開催となり、日本のスポーツ界に大きな財産を残しました。
【異常気象による自然災害と健康被害】
昨年は自然災害による河川の氾濫、土砂崩れなどの甚大な被害が東日本を襲いました。
全国各地からは「何年に一度」という枕詞で大きな「自然災害」の二コースが流れ、秋になってからも猛暑が続くなど、「日本は四季を失ってしまった」かのようでした。またこのような異常気象により例年よりも遅い冬の訪れに少し油断していたところ急な寒波がやってきて慌てて防寒着を羽織ることになりましたが、それでも落ち着いた年の瀬を迎えることができました。

都市化が進むほど、電気、水道が止まって機能不全に陥ったり、道路は分断され交通マヒが発生し、食料不足は当然のこと、病院の機能にも影響を及ぼすなど、自然災害への脆弱性が懸念されています。
栃木県北では過去の大水害の経験を活かして多くの方の命が救われましたが、県南では甚大な被害となり、救援のため当院の※1DMATと救護班が出動となりました。

今後は災害に備えて、日頃より危機に対する対策と訓練を行う必要があります。想定外の事態を回避できなくとも、起こった際には最悪の事態を想定、回避するために※2クライシスマネジメントが重要になり、その極意は臨機応変ということになります。
また身近な健康被害に目を向けると、高温多湿の環境から起こる食中毒や、高温が続くことによる熱中症などが、高齢者の増加により今後さらに増えると思われ、十分な注意が必要です。

【県内大学からの医師支援】
昨年度は救急医が減少することとなりましたが、県北地域の救急医療を守るために、急遽県内の大学から快くご支援をいただくことができ、以前にもまして消防との円滑な連携により、救急搬送も含め、受け入れ件数も増加傾向になりました。今後はドクターヘリ導入に向けての検討も引き続き行っていき、地域の最適な救急医療体制の確立に貢献出来るよう努力する所存です。また、救急科以外では、整形外科における医師の派遣大学が変更になる事になり、脊椎に関する手術件数が増加するなど、体制が強化されております。
【健康寿命の延伸（えんしん）】
日本は現在少子高齢化社会に突入し、世界でも前例のない超高齢化社会を迎えようとしています。問題は平均寿命と健康寿命の年齢差です。健康寿命とは人生の最後まで元気に健康で楽しく毎日が送れる

ことを目標としています。重要視しているのは運動「食生活」禁煙」の3つの分野です。加えて自分を知ることを大切として、健康維持や病気の早期発見を目的とし、定期健康診断や特定健診、がん検診、整形外科の※3ロコモ外来、認知症の診断なども呼びかけています。日本の医療制度は素晴らしい面もありますが、抱える問題も山積みです。今後は日本も個人の責任が問われる時代となり、100分の命は自分で守るという意識を徹底し、自ら健康を守る対策を講じるべきでしょう。

【地域医療構想と働き方改革】
地域医療構想では病院の編成や存続に関する事も関係しており、医療関係職のモチベーションに大きく影響を与えていると聞いています。
働き方改革は医師ばかりではなく、医療関係者の健康を守り、地域医療を守ることが二本柱として上げられており、これからは職員も健康を十分考慮して安心して働くことができる職場作りをしていきたいと考えております。

新年を迎え、私たち那須赤十字病院は、今年が明るく希望に満ちた年となるように祈りますとともに、地域の皆様に関心され、信頼される医療を提供し、皆様の健康づくりに貢献できるように、日々努力を重ねていきたいと決意を新たにしております。
当院も70年目となり、那須赤十字病院に新築移転して8年目を迎えることとなりました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

※1DMAT：大規模災害や事故などが発生した場合に、被災地の都道府県の要請を受け、迅速に被災地へ駆けつけて救急医療を行う医療チーム
※2クライシスマネジメント：組織の事業継続や組織の存続を脅かすような非常事態に遭遇した際に、被害を最小限に抑えるための組織の対応手段や仕組みのことを指す
※3ロコモ：運動器の障害のために自立度が低下して介護が必要となるリスクが高くなっていたりする状態



診療所の先生方はみなさんの健康を支えてくれる心強いパートナー。こちらのコーナーでは日々当院と連携いただいている登録医の先生を紹介していきます。

今回は「あしのメディカルクリニック」を紹介します。

対象疾患：麻酔科、整形外科、内科



院長 塚原 純雄

先生にインタビュー

当院との医療連携について期待されていることはどのようなことですか？

当地域は那須都市医師会の中でも最北端に位置しておりますが、那須赤十字病院までは車で20〜30分ほどで到着でき、当クリニックと那須赤十字病院との連携は円滑に出来ていると思います。

他施設でも同じだと思いますが、※1地域医療連携室が稼働していない時間外の連絡には苦労しており、今後の課題の一つであると思います。

また、私の専門が麻酔科であり、毎週水曜日に那須赤十字病院手術室にて麻酔のお手伝いをさせて頂いているため、一部の先生とは特に連携がとれていると思います。

また、当クリニックでは在宅診療も行っており、退院指導室の方達とも連携させて頂いております。

毎日忙しいと思いますが、休日はどう過ごされていますか？

私は高校時代サッカーをしており、ポジションはゴールキーパーでした。その関係か2人の子供がおりますが、長女も中学時代サッカー部に所属（現在は高校1年生でサッカーは引退）、中学3年生の息子はサッカーのクラブチームに所属しており、休みの日があれば、息子の追っかけをしております。

また、慢性腰痛症を患っておりますが、ゴルフ好きで地区医師会の先生方と年に6〜7回ほどラウンドしております。もう一つ昨年からは脳を鍛え、活性化させると言われております「ナンプレ」にはまっておりませんが、薬の名前が出てこない、人の名前が出てこない等、物忘れが進んでおります。

地域の方々、患者さんへ一言お願いします。

あしのメディカルクリニックは、那須町芦野に日本初のCCRC(Continuing Care Retirement Community)事業として開設致しました「アークユ芦野倶楽部」の一角に併設しております。

CCRCの概念は、高齢者が健康な時から医療支援・介護が必要になる時期までの間継続的なケアを受けられる環境の整った施設と考えられており、欧米ではすでに広く普及しております。勿論、当クリニックは地域の方々的一般診療（特に痛み治療）を中心に在宅診療もおこなっております。今後とも宜しく願っています。

※1地域医療連携室

患者がスムーズに医療機関へ受診、入院できるように行政や福祉に関わる多くの施設をつなぐ設計を担う。

基本情報



- 院長
塚原 純雄
- 住所
那須町芦野1469-264アークユ芦野倶楽部内
- 電話
0287-73-8885
- 診療科目
麻酔科、整形外科、内科
- 休診日
月曜PM、水曜、日曜、祝祭日

当院の看護部は約600人で構成されており、看護師・助産師・准看護師・保育士と多種多様な人員で構成され、個々の患者さんの状態に合わせた質の高い医療を提供します。第一回の今回は「救命救急センター」「ICU病棟」を紹介します。



救命救急センター

救命救急センターの看護師は、「救急チームの一員として、プレホスピタル(病院前救護)から始まる地域に根ざした思いやりの看護の提供」を目標にしています。プレホスピタルではドクターカーナースとして、救急外来ではすべての診療科の軽症の一次救急の方から緊急な治療を要する重症の三次救急の方まで対応しています。救急病棟では、いつでも緊急対応ができる体制をとりながら、急性期の治療・療養に取り組んでいます。

看護師長 益子 みどり



ICU病棟

当院ICUは、栃木県北唯一の三次救命救急センターの集中治療室としてICU8床、GICU8床を有しております。入室の対象となるのは、大手術等の治療を受けた直後の方や、救急搬送され、集中的な治療、看護が必要と判断された患者さんです。

ICUでは毎朝、医師・看護師・薬剤師・理学療法士と多職種によるカンファレンスが行われ、そこでは医師の治療方針、看護師の本日のケア計画、リハビリ計画などが話し合われています。ICUでは患者さんが早期に回復できるように、多職種が一丸となり、治療、ケアを行っております。

看護師長 狩野 満里 福西 由貴子

第5回病院祭「マイタウンまつり2019」を開催しました!

病院祭実行委員会

5回目となる病院祭

那須赤十字病院祭は「つなげよう!! 医療 福祉 地域の絆」をテーマに10月20日(日)に開催され、病院祭当日は、およそ750名の来場者がありました。

たくさんのご来場ありがとうございました。

様々な体験やイベントを実施

今年度も医療に関する企画はもちろん、大田原女子高等学校合唱部・吹奏楽部の演奏や地元の子どもダンスチーム[Lila(リーラ)]によるパフォーマンスも行いました。また、中学生手術体験では10名の中学生が院長や研修医、看護師の指導のもと内視鏡や電気メスなどの体験を行いました。那須赤十字病院はこれからも地域密着型病院として病院や医療について知っていただけるように努力してまいります。

ようこそ産科病棟へ



助産師の仕事の紹介や各種相談を行いました

知っ得! 納得! お口のこと



歯の磨き方などの集団指導を実施しました

「Lila(リーラ)」による ダンスパフォーマンス



小学生の元気のある歌唱力とパフォーマンスに圧巻!

模擬店も大盛況



病院祭当日は見事な快晴となりました

栄養相談



栄養相談と栄養教育のパネルはとても勉強になります

大田原女子高等学校の 吹奏楽と合唱は超満員



レパートリーが豊富で時間を忘れ楽しみました

薬剤師って何をしているの?



自動分配器を使用するの模擬調剤体験やお薬相談は珍しい体験となっています

医療機器操作体験



医療機器を操作するのは貴重な体験です

手術体験



今年度は10名の中学生が参加、電気メス体験、内視鏡操作の体験を実施

赤十字の講習

赤十字救急法指導員 秋元 利匡 (社会課 社会係長)

赤十字救急法等の講習については、「救急法」「健康生活支援講習」「幼児安全法」「水上安全法」「雪上安全法」の5つの講習があります。それでは、各講習概要につきまして紹介いたします。

○救急法

心肺蘇生とAEDの使い方、日常生活における事故防止、急病の手当、出血や骨折などのケガの手当のほか、災害時の心得などの知識と技術が学べます。



講習会のようす(赤十字救急法)

○健康生活支援講習

健康寿命を延ばし、自分が健やかな高齢期を迎えるための介護や認知症の予防のほか、地域で高齢者を支援するときに役立つ知識・技術等について学べます。

○幼児安全法

こどもに起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気の対

処のほか、乳幼児の心肺蘇生とAEDの使い方や災害時の乳幼児支援などについて学べます。



毎年開催される病院祭でも指導しています(赤十字幼児安全法)

○水上安全法

泳ぎの基本、事故防止とプールや海での監視技術、溺れた人の救助などについて学べます。

○雪上安全法

スキー場などでの事故防止や、ケガ人の救助と手当の方法、スキーパトロールに必要な知識と技術などを学べます。

「市民による救命率」の向上を目指して

特に、救急法では、心肺蘇生とAEDの使い方、気道異物除去の「一次救命処置」といわれる、緊急性の高い手当を4時間にまとめた「救急法基礎講習」の参加機会を多く設けることで、昨今、重要性の叫ばれる「市民による救命率」の向上に寄与することを目指しています。

また、前述の5つの講習は、満15歳以上の方を対象とした、12時間程度の正規講習を基本としています。受講者数は、これらの制約がない短期講習が大半を占めています。短期講習は、受講者の要望によりテーマを選べるようになってきているので、受講者のニーズに応じた魅力的な短期講習も積極的に普及しています。

詳しくは、日本赤十字社栃木県支部のホームページまたはお問い合わせください。

事業推進課健康安全係

TEL: 028-622-4801



那須赤十字病院の救急法・幼児安全法・健康生活支援講習の指導員です。

10月 第19回全国赤十字病(産)院スポーツ大会

駅伝部全国5位/10月29日から10月30日

全国赤十字病(産)院体育大会が大阪赤十字病院が当番で開催されました。各地区からの代表チームが全国各地から集結し、約52施設の赤十字病院で大会が開催されました。

当院からは駅伝部・バスケットボールが参加しました。バスケットボール部はベスト8、駅伝部は昨年の4位入賞に続く5位入賞となりました。来年の全国大会は野球部・フットサル部・バスケットボール部・駅伝部が参加予定ですので、活躍を期待しております。



那須赤十字病院駅伝部のみなさん

台風19号被害によるDMAT・救護班出動

栃木市で活動/10月13日から15日

台風19号の影響により、関東甲信越～東北を中心に記録的な豪雨となり甚大な被害が発生しました。当院は栃木県からの要請を受け「県北地域活動拠点本部」設置し、栃木市を中心とする活動を実施、DMAT2チーム、救護班1チームを派遣しました。

現場では※1DPAT・DMATと連携し当院の林医師が本部長となり患者搬送などの活動を中心に実施しました。



栃木市内の病院における那須赤十字病院DMATチーム

11月 昼間防火訓練

リハビリテーション室/11月28日(木)

消防法に基づき、院内防火訓練がリハビリテーション室で実施されました。今回の訓練は事前に机上訓練の打合せ、訓練当日は※2自衛消防組織により行動し、消火訓練、模擬患者の搬送、防火扉・消火栓の位置確認を実施しました。また放水訓練も実施し、真剣な面持ちで取り組みました。



放水訓練も実施しました

※1DPAT

DPAT：自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的なチーム。

※2自衛消防組織：消防法に基づいて設置される人的組織。

病院ホームページ バナー広告募集

病院ホームページのトップページに広告を掲載しています。

■掲載位置

A:全ページ左側の病院が指定する場所。

B:全ページ下部の病院が指定する場所。

■掲載寸法

A 枠:縦70ピクセル×横220ピクセル

サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

B 枠:縦70ピクセル×横230ピクセル

サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

■掲載期間

一ヶ月を単位とし、最長1年

■募集枠

A 枠:3

B 枠:4

■掲載料金

A:15,000円/枠/月

B:10,000円/枠/月

■申込み・問合せ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

E-mail: nrchp@nasu.jrc.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.nasu.jrc.or.jp/>



「プラタなす」に広告を掲載しませんか

病院広報誌「プラタなす」に掲載する有料広告を募集しています。

■広告の大きさ 縦30mm×横95mm

■掲載期間 1号単位(4回/年発行)

■募集枠 最大2枠

■掲載料金 20,000円/枠

■掲載期間 発行号単位

■申込み・問い合わせ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

がんのつどい

1月4日(土)	フリートーク 会議室1・2
2月1日(土)	「がんリハビリテーション」 理学療法士・作業療法士 会議室1・2
3月7日(土)	フリートーク 会議室1・2

今月の表紙



大田原赤十字病院から那須赤十字病院に移転して、本年で8年となりました。当院はこれからも「マイタウン・マイホスピタル」をモットーに地域密着型病院として邁進していきます。本年もよろしくお願いいたします。

編集後記

「寒くなってきました。寒くなってくるとビタミンCが不足しがちになります。ミカンなどのビタミンCを多く含む食べ物を食べるなどして、不足したビタミンCを補いましょう。ミカンと言えばこたつ。風邪の予防として、暖かいこたつに入ってみるのも一つの手段です。いただきます。」

看護師 M・N

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください!

抽選で3名様に「CroKuma 救護服ぬいぐるみ」「CroKuma ナースぬいぐるみ」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。

以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

●応募先

郵 送 / 〒324-8686 大田原市中田原 1081-4

那須赤十字病院 総務課

プラタなす第28号 プレゼント係

F A X / 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第28号 プレゼント係」

メール / nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第28号 プレゼント係」

●応募締切り 2020年1月31日(金)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

那須赤十字病院

基本理念

日本赤十字社

マイタウン・マイホスピタル

～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さんの立場を尊重し、患者さんに信頼される病院をつくります。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.28

発行日 2020年1月

発行所 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷